

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

新年賀詞交換会.....	1
理事会報告.....	2
委員会報告<ホームページ・ダイレクトリー委員会>ほか...	3
出版物の複写(コピー)問題について().....	4
新・パソコン外論考(其33).....	6
出版文化史逍遙(76) 洋書の歴史雑記帳(XXXI)...	7

新年賀詞交換会

2003年1月8日(水)
於 プレスクラブ

2003年の幕開けは文化厚生委員会主催のメインイベント、新年賀詞交換会。プレスクラブのロケーション、雰囲気、料理、飲み物等々、参加された会員の皆様にはご満足いただけましたでしょうか。

今年の司会はダンディでスマートな大洋交易社長和

田茂氏にお願いしました。

オープニングの挨拶はプレスクラブにふさわしい文化厚生委員長、ユナイテッド・パブリシャーズ・サービス社社長のマーク・グresham氏。外人記者クラブですからもちろん英文スピーチです。司会の和田氏からのコメントもありました通り、わかりやすいスピーチを全文ご紹介致します。

Good evening ladies and gentlemen. Welcome-on behalf of the Bunka Kosei linkai of Japan Association of International Publishers. We hold these parties to greet the new year with you and to greet each other with words of encouragement and



hope. These last few years have been difficult ones but we gather here tonight with a renewed spirit

to do our best to make new year better. Please enjoy the food, the drink and the conversation.

学生時代にマークさんのようなやさしい英語の先生から授業を受けられたら、私の英語もっと上達したかもしれません。

続いて日本洋書協会理事

長、丸善株式会社代表取締役社長村田誠一郎氏より新年の挨拶と乾杯のご発声をいただきました。

干支の「ひつじ」にちなんで「古来より朝ひつじ雲を見ると良いことがある」の例えからワールドカップサッカー、小柴昌俊さん田中耕一さんのノーベル賞ダブル受賞等、希望の持てる明るい材料も多々見られる年になりそうと続けられました。そして「会員の皆様お一人お一人が新しいことを起こされる2003年であるように願っています」とスピーチを結ばれました。又、1月1日付けでブラックウェルパブリッシング株式会社を新しく正会員で迎える事が出来た幸先の良いスタートを祝って乾杯のご発声をいただき、村田理事

長のやさしさと信念を曲げない力強いリーダーシップをスピーチの中から感じとり、意を強くした2003年のス





事長・YOHAN代表取締役社長渡辺正憲氏より、会員

タートとなりました。

会員同志の懇談、会食等、時間の経つのも忘れる頃、ブラックウェル・パブリッシング(株)石橋王良氏と清水充氏、内田玲子氏、佐藤章子氏、松本千恵子氏、山口あや氏の自己紹介をいただき、最後に副理

の皆様が手を取り合って元気を出してカンパリましょうと力強い中締めのご挨拶をいただき、2003年の新年賀詞交換会のお開きと相成りました。

来年又おなじ会場で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。



(株東亜ブック 鶴三郎記)

理事会報告

1月29日(水)

1. 以下の事務局長報告を了承した。

2月13～15日の間、渡辺副理事長及び高橋事務局長が関西地区会員を訪問する。

東京国際ブックフェアの開催権譲渡に伴う還付金の一部が年度内に配分される。

2000年1月にスタートした共同物流の現況は以下の通りである。

- ・実施地域：USA（主としてN.Y.発）
- ・参加社数：6社
- ・2002年実績：328件 212t.
- ・入出荷状況確認、出荷指示がウェブ上で可能
- ・西欧地域のサービス提案の用意あり。

2. 2003年度定時総会

選挙管理委員長委嘱に関する総務委員会提案を了承した。

活動予算案作成に当たり、事業・活動の方針と内容を明確にすることを各委員会に求める。

3. 入・退会

カラーフィールド(株)の2月1日付け入会を承認した。会員資格：正会員

以下の二会員の退会届けを受理した。

・(株)マクミラン出版社（1971年入会）

・(有)エンデルレ書店（1941年入会）

2003年1月末現在会員社数：75社

4. 以下の委員会報告を了承した。

フランクフルトBFに関するアンケートに対し本日現在25社より回答を得た。集計・分析の上2月理事会で報告する。（広報委員会）

1月21日の委員会にて今後の活動討議。（内容は別掲報告のとおり）（HP/DIRECTORY委員会）

2004年新年賀詞交換会会場は確保済みである。

（文化厚生委員会）

5. 事務局長人事

理事長及び副理事長に一任した。

6. その他

洋書ウェブサービスシステム

- ・一般書店を対象とし、洋書扱い店拡大を図る。
- ・システム開発及び維持に多額の資金投入を要するが、現在の参加表明社数では分担費用が過大になるので計画進行を一時停止している。

外国雑誌のodd numbersを会員相互に交換する場が設けられないか。

委員会報告 <ホームページ・ダイレクトリー委員会>

1月21日(火)<於ユサコ例会議室>

1. 理事会及び各委員会の議事録、活動報告等を積極的にウェブ上に公開するよう各委員会に働きかけを行う。(理事会報告済み)
2. JAIP会員以外の同業者(Rep.を含む)の住所、電話番号をホームページ上に公開し、同業者住所録の意味合いで会員の利用に供する。
3. 「JAIPダイレクトリー2003」は昨年通りの仕様で

発行することで合意した。定時総会(5月16日)までに配付を完了することを目標におき、会員には2月末日までにデータチェックを依頼することとした。また、財政状態厳しき折、委員挙って広告収集に努める。

非加盟同業者名簿は、2月13日よりウェブ「会員のページ：掲示板」に掲載しています。

国内洋書流通再編の兆しか?

<洋販・タトル商会事業統合へ>

去る2月28日、日本洋書販売配給(株)<洋販>と(株)タトル商会が今年6月を目標に事業統合することに合意した旨両社より発表されました。同日付けのプレスリリースによれば、新社名は日本洋書販売(株)<略称：新洋販>、代表取締役会長に洋販社長・渡辺正憲氏、代表取締役社長兼CEOにタトル社長・賀川洋氏が就任される予定です。洋書卸会社として業界1・2位であり、また当協会の主要メンバーでもある両社の事業統合が日本の洋書業界に与えるインパクトはたいへん大きいと言えます。市場の低迷に加えて、ネット販売の脅威にさらされている我が洋書業界再起の強力な牽引車たらんことを新会社に期待して止みません。

新会員を紹介します

会員社名：カラーフィールド有限公司

新住所：東京都渋谷区宇田川町12-17

プロトビル 4F

Tel: 03-5784-0801

Fax: 03-5784-0808

代表者：代表取締役 佐久間 達也氏

主要事業：アート・クラフト関係書籍、雑誌、
関連商品の輸入、卸売、小売、通信販売

入会日：2003年2月1日

会員資格：正会員

告 知

2003年度定時総会

2003年度定時総会は以下のとおり開催されます。

記

日 時：2003年5月16日(金)

会 場：都内ホテル

本年は役員改選があります。詳細は追って通知します。

〔事務局〕

会 員 の 動 き

【退 会】

残念ながら下記の正会員3社退会されました。

会員名：株式会社 マクミラン出版社

(1971年3月入会)

株式会社 東光堂書店

(1941年海外出版物輸入同業会設立に参画)

退会日：2002年12月31日

会員名：有限会社 エンデルレ書店

(1941年海外出版物輸入同業会設立に欧亜書房として参画。戦後改称)

退会日：2003年1月16日

出版物の複写（コピー）問題について

〔 〕

(株)医学書院 金原 優

〔 〕 2003 年 1月号の内容

1. 著作権法の規定
 - ・ 著作者の権利
 - ・ 著作権法第 31 条
2. 複写の実態と問題点
 - ・ 図書館

2. 複写の実態と問題点

科学技術振興事業団

科学技術振興事業団 (Japan Science and Technology Corporation = JST) は科学技術振興事業団法によって設立された政府出資の特殊法人で、その主務官庁は文部科学省です。JST は日本が科学立国として更に発展するために必要な組織であることは事実ですが、JST 業務の一つである文献複写サービスには大きな問題があります。JST は著作権法第 31 条に基づく政令指定を受けた図書館として複写にかかる著作権使用料が免除されていますが、JST の複写サービスは年間 110 万件、ページ数にするとその 7、8 倍、つまり年間 1000 万枚近い複写を行っており、その膨大な数字は一つの図書館としては規模が大きすぎます。国立国会図書館でさえ年間の複写枚数は 580 万枚ほどであり、JST はそれをはるかにしのぐ枚数を自然科学系の学術論文領域だけで行っていることは大きな問題です。

規模の大きさもさることながら、我々権利者から見ると、JST には次のような問題があります。

利用者が図書館への来館者ではなく、郵送、インターネット等により複写物を館外から要請していること。

複写提供にファックスを利用していること。

複写物の作成業務を外部の業者に委託していること。

利用者の殆どが企業であること。

民間のドキュメントサプライヤー（後述）と競合していること。

JST の利用者はほとんどが非来館者ですが、非来館者も著作権法第 31 条に規定される複写物の提供を受けることができるとなると、利用者はどこにいても、どこの図書館からも（一定の制約はありますが）出版物のコピーを複写にかかる実費負担だけで入手できてしまうことになります。図書館は本来出版物を閲覧に供し、館外貸出しに対応するところです。図書館における複写は閲覧の補助的なものであり、閲覧が伴わなければ複写もあり得ない、というのが出版社の主張です。

JST は必然的に複写物の館外利用者への提供を郵送その他の方法によって行っていますが、一部はファックスを利用しています。著作権法第 31 条には複写物の提供方法についての規定はありません。規定がないのはそもそも館外利用者を想定していないからであり、従ってこのことから非来館者は利用者とは言えないと考えています。本論であるファックスによる利用者への提供は著作権法第 23 条の規定（公衆送信権は著作者の専有する権利）によって著作権者の許諾がなければできません。このことについて昨年 JST は著作権法に抵触することを認め、今後は著作権使用料を支払うとしています。

JST は複写業務を民間の業者（株式会社組織）に委託しています。株式会社という営利企業では全ての業務に利潤が伴い、複写業務の受託も例外ではありません。となると著作権法第 31 条にある「営利を目的としない業務として」という要件を満たさないことになります。本来は図書館が自ら「営利を目的としない業務として」行わなければならない複写業務を外部に委託し、そこで営利活動を行うのは抜け駆けであり、違法であると考えます。更に問題はこの受託会社の役員、主要ポストの社員は JST 出身者で占められていることにあります。

JST はその目的からして複写の対象となる出版物は当然自然科学系の学術論文ですが、大半は理工学系の専門雑誌に掲載された論文です。また全体の約半分は外国文献であり、これだけ大量の無料複写が行われて

いることは洋書輸入業界としても問題です。更にその複写物はファックス1本、電子メール1通で製薬企業や、建築、電子機器、自動車、といった一般の企業に著作権使用料の負担なしに営利目的として館外利用されていることを考えるとコストの平等な負担という見地からもJSTの31条図書館としての適格性に疑問を持たざるを得ません。

ドキュメントサプライヤー

学術専門雑誌に掲載された論文を中心に有料で頒布するドキュメントサプライヤー（DS）と呼ばれる事業者がいくつか存在します。前掲のJSTもDSですが、それ以外のDSは図書館ではなく、文化庁の政令指定も受けていません。従ってこれらのDSが出版物を複写するためには著作権者の許諾が必要です。これらのDSが取り扱う出版物はそのほとんどが医学系の専門雑誌に掲載された学術論文であり、国内出版物と輸入出版物の比率はほぼ半々となっています。複写物の頒布先は製薬企業が大半ですが、一部は大学、病院、研究所などの学術機関も含まれています。

DSの歴史は古く、10年以上前から複写事業を行ってきましたが、これまでどのDSも著作権者の許諾を得ずに複写業務を行っていました。こういった業務は明らかに著作権法違反ですが、権利者側が問題点の指摘を行ってこなかったことも事実です。

学術専門雑誌は領域が細分化され、種類も多く、利用範囲も広範です。また、過去に発表された論文が数年後に資料として活用されることもしばしばです。また、特に医学系の論文については医薬品利用の補助的情報として製薬会社によって大量に複写物利用されており、その多くは、医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療従事者に情報として提供されています。製薬会社がこういった学術専門雑誌を全て購入し、必要と

なる部数を取り揃えておくことは事実上不可能でしょう。必要なときに複写で対応することは避けられません。

JSTを含むDS各社はこういった複写資料の要請に応えることを業務としています。学術論文の複写は情報の有効利用のため、あるいは医学の進歩と医薬品の適正な利用のために必要なものであることは理解できます。しかし、利用者による複写は明らかに購入の代替です。こういった専門雑誌のほとんどは出版社が営利目的のために出版しているものであり、明らかに著作権法に違反し、権利者利益の侵害である複写が無断で行われて良いことにはなりません。

DSの多くは後述の通り、昨年から著作権管理団体と契約を結び複写利用料を支払っています。しかしJSTは相変わらず31条を盾に複写利用料の支払を行っていません。これはJSTという官によるDSという民の経営圧迫であり、それがJSTにおける問題点の5番目なのです。

一般企業・研究施設

図書館やJST・DS等における複写も大きな問題ですが、それ以外に一般企業や大学、研究所、その他の施設において複写されている出版物も膨大な量にのぼります。日本書籍出版協会が以前に行った調査では企業や学校・研究所等における出版物からの複写は年間約14億枚との結果が出ています。これらの企業や研究所等の一部はJRRC（後述）と複写利用契約を締結していますが、JRRCは自然科学系を中心とする学術専門書の権利委託を受けていませんので、JRRCと未契約の企業・研究所等も含め、それらの複写は依然として無許諾で行われており、ここでも著作権者の権利と利益の侵害は甚大です。

< 以下次号 >

東京国際ブックフェア2003

今年の東京国際ブックフェア（TIBF）は規模が大きくなって以下のように開催されます。当協会主催「洋書バーゲンコーナー」も併催しますので、是非足をお運びください。

期 間：2003年4月24日（木）～27日（日）

開場時間：10：00～18：00

会 場：東京ビッグサイト

招待券の用意があります。ご入用の節は事務局へお申し越してください。

〔事務局〕

新・パソコン外論考(其33)

宇田川一彦

Manhattan / マンハッタン

■子曰、君子博学於文、約之以礼、亦可以弗畔夫、

The Master said, "The Gentleman widely versed in culture but brought back to essentials by rites can, I suppose, he relied upon not to turn against what he stood for.

(論語 / 雍也篇・Confucius; The Analects/BookVI)

【超拙意訳：先生が、言われた。「君子は、まず広い教養を身につけねばならない。で、広い教養を持つだけでなく、礼(正しい生活の様式)を中心に集約すれば、まず正しい道から外れることはないね。】

Internet について (博物館海外編 - N.Y. 編2 -)

アメリカ・New Yorkのメトロポリタン美術館 (The Metropolitan Museum of Art: <http://www.metmuseum.org>) の続きです。同館の入館料は12ドル。入館の際に入手した(勝手にもらったのですが) Museum Plan (2か月に1回刊行。館内の案内図) で見学コースをチェックしました。この時わかったのですが、日本語によるハイライト・ツアー(無料)が毎日・金曜の午前11時15分より行われているようです。

どうしても見落とせないと思っていた、The Robert Lehman Collection (R.レーマンは銀行・航空会社・石油会社の経営者。親子2代、70年にわたって収集された絵画を1967年に寄贈。初期のイタリア絵画などを中心に収集)は、入口の大ホール(The Great Hall)をまっすぐ突き進んだ奥にありました。

ページョ色の大理石の床にグレイの絨毯、天井からの淡く明るい光、地下からの吹抜けの翼状(菱形)回廊の大広間(atrium)、この回廊の回りに8つの部屋があります。ゆったりとした雰囲気と絵画を鑑賞できるように構築されています。これだけの収集絵画類をまとめて個人が、美術館にボンと寄贈するという懐の深さに溜息がでます(入口には、彼の写真と肖像画があります)。ある意味で、「文化格差(culture gap/culture shock)」を受けました。

この回廊にはフランス絵画がありました。ルノワールの「シャルパンティエ夫人と子どもたち」「草原にて」などの明るい色使いに感動しました。

8つある部屋は、それぞれがレーマン邸の自宅を模した物となっています。たとえば、イタリア絵画の

ある部屋は、食堂を模したものです。セザンヌの「木のある風景」、ドガの「農婦の踊り」がある部屋や、大理石の大きな暖炉がある居間の部屋には、ベラスケスの「マリア・テレサの肖像」などがあります。

同館の特徴は、ギリシャ・ローマ時代のアートやエジプトの美術館が充実していることです。さらに日本のアートコーナーには、歌麿などの浮世絵、版画、磁器などもあります(駆け足で鑑賞)。このほかに、C. Diorのディナードレスが展示してあるコスチューム研究所(The Costume Institute)など、ちょっとユニークなものもあります(16世紀後半から現在までの、ファッショナブルなドレスからヨーロッパ・アジア・アフリカ・アメリカなどの地域の服装がある)。

また、巨大なMuseum Shop(当館では、Met Storeと称している)も必見です。品数の豊富さも別格のミュージアムショップです。その意味では、米語のストアなのかもしれません(米語では、shopは小売店・専門店、英語では商店、米語ではstoreは商店、英語では百貨店)。この別格Met Store(<http://www.metmuseum.org/store>)は、本館(5番街82丁目通り)の他にいろいろなところに出店を持っています。

N.Y.だけでも、The Cloisters/Rockefeller Center/SoHo/Macy's Herald Square/LaGuardia Airport/J. F. Kennedy Airportがあります。アメリカには、Atlanta/Houston/Denver/Las Vegas/Orlandoにもあります。

と、同時にMet Museumのwebsiteサイトからも購入できます。HP(Home Page: 背景は青磁色(砧青磁: 白みを持った緑色)の左上に、What's Online(site indexやcollectionなどを検索できます)その右欄にSpecial Exhibitionsの紹介があります。そして下欄のSelected HighlightsでThe Met Storeの美術品(fine art)のonlineショッピングができます。

筆者は、記念に本館のMet Storeで、R.Avedon撮影のChaplinの写真はがき1枚70セントで購入しました。また、おみやげにRockefeller Center店で、いまや同館の非公式マスコットとなったカバ(hippopotamus)のWilliamを(いちばん小さいぬいぐるみを)13.95ドルと8.25%の州税(消費税)で購入。「古代エジプト人は、カバを超自然なパワーを持つものと信じていた」と、耳に付いているタグに、由来があります。

領収書には、金額と同時に最後に“Thank you for supporting the museum.”と印字されていました。

(この項続く。乞ご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXXI〕キリシタン版の原書(5) 鈴木陽二

天草(2)

私の天草旅行は、結局牛深まで足を延ばすことになった。「牛深三度行きゃ 三度裸 / 鍋釜売っても 酒盛りゃしてこい」と、「ハイヤ節」に歌われてにぎわった牛深は天草諸島の南の果てにある湊町だが、外洋からは細い海峡を回り込んだ湾奥にあって、穏やかな海域を臨む風待ち・しけ待ちの良港だった。そして江戸時代、牛深漁師が日本海一帯で漁獲を営んでいたことや千石船の航行によって、ここで生まれたにぎやかな酒盛り歌「ハイヤ節」が日本海沿岸各地に伝えられ、「越中おわら節」や「佐渡おけさ」、津軽の「アイヤ節」、北海道の「ソーラン節」など、形を変えて歌い継がれて行ったほど来往の盛んな港町だった。しかし「五足の靴」の一行が訪れた明治40年頃にはかなり寂れていたようで、遊女宿はただの三軒、「暗き灯、疎なる垣、転た荒涼の感に堪へなかった」と記している。筆者が訪れた牛深は意外に活気に満ちた町で、年末だというのにそこそこの観光客が訪れていて、港周辺の物産館や鮮魚店をのぞいたり、グラスボートで海中観光に興じたりしていた。埠頭の目の前には湾口を扼する恰好で長大なハイヤ大橋がかかり、暮色の広がり始めた港にそこはかと旅情を覚えたものだったが、しかし今では何処にも「五足の靴」の一行が感じたようなうらぶれた寂寥感を見いだすことはできない。

さて、1591(天正19年)に天草河浦に居処を得てから長崎に転出するまでの約5年間のコレジオの活動は、1580(天正8年)に豊後府内(大分市)に始めて設立されて以来最も充実したものだったという。出版も活発に行われ、40種類ほどを上梓しているが、その主要なものを拾って、原書を説明することにしたい。

天草コレジオで1592(文禄元年)に印刷された『ドチリナキリシタン』(Doctrina Christiana)はキリシタン版中の白眉で、印刷部数も最も多かったと推定されている。トリエント公会議で制定された「ローマ・カテキズム」が1568(永禄11年)に日本に輸入され、日本人一青年の助けで翻訳され児童に教授されたことが『イエズス会士日本通信』で報告されているが、これは1566年にイエズス会士のM.ジョルジェが児童向けに問答体で編纂した教理書だったろうと想定されている。1570(元亀元年)に来日したカブラル布教長が

ジョルジェのカテキズムを採択したことで、この教理問答書を原本として天草版『ドチリナ』が製作されたと考えられている。『ドチリナ』の印刷は三カ所で行われ、天草版はローマ字で、1591(天正19年)の加津佐版は漢字交じりひらがな、長崎では1600(慶長5年)にローマ字と漢字交じりひらがなの2種類が印刷されたが、印刷本以外に写本も作られた。天草版は1917(大正6年)三菱の岩崎が購入してモリソン文庫に収め、現在はその後身東洋文庫が所蔵している。

モリソン文庫は、日露戦争で日本の勝利に重要な役割を演じたロンドン・タイムズ紙北京特派員ジョージ・アーネスト・モリソンが収集した、中国を中心とした東洋関係の一大文献コレクションだった。日本はその売り立ての情報をいち早く入手し、東京帝国大学文学部学長の上田万年に調査を命じられた東洋史学科の石田幹之助副手は、その価値を丸善に相談した。そのとき相談を受けた社員は、コレクションがモリソンのものだとすぐに看破し、指し値の3万5千ポンドが妥当なものだと評価したという。各国から購入の申し込みがあった中で、結局日本が最も早かったということで、三菱の岩崎久弥の資金で購入が決まり、東洋文庫が設立された(榎一雄「東洋文庫と丸善」『学鐙』丸善創業100年記念号)。

次いで、天草刊行書で天理図書館が所蔵している『精神修養綱要』に触れよう。いわゆる「コンペンヂウム」(Compendivum Spiritvals Doctrinae)だが、昭和27年に丸善が開催した「『きりしたん版』を中心とした日本及東亜関係古文献展覧会」に出展したことは、前に述べた。本書は元来ブラガの大司教バルトロメウ・デ・マルチリプス師が自らの精神鍛錬のため記した覚書だったが、1582年にリスボンで公開された。日本では1596(慶長元年)に天草で印刷されたが、宣教師や修道士の修練のための書籍だったため、日本語には訳されずラテン語原本を忠実に復刻したのだという。しかし、原本が何年版で、いつ輸入されたのかわからない。現在は天理図書館のほか北京の北堂文庫とマニラのアウグスティノ修道院に現存している。〔参考文献：海老沢有道『日本キリシタン史』/同『キリシタン南蛮文学入門』/富永先生古稀記念『きりしたん版研究』〕 (元丸善・本の図書館長)

Whitaker

Whitaker社の新刊ご案内

Whitaker's Books in Print 2003

The Reference Catalogue of Current Literature

イギリス市販図書総目録 2003年版

2003年3月上旬入荷予定 全5巻 ハード版 ISBN 0-85021-329-0 ¥170,520 (税別)

《イギリスで出版された市販図書およびヨーロッパで出版された英語の市販図書で現在入手可能ものの最新版総目録です。41,273の出版社から刊行された1,110,000以上の書籍が著者とタイトルの一連式でアルファベット順に収録されています。》

Table of Contents:

Introduction
How to use Whitaker's Books in Print
Notes on Book Sizes
Abbreviations
Guides to Books Available in the UK and their Publisher
Author and Title Index
Publisher Prefixes in Numerical Order
International Standard Book Numbers
Publishers and their Addresses
Series and their Publishers

Whitaker's Books in Print is unique in British bibliography. Since its inception as The Reference Catalogue of Current Literature in 1874 by Joseph Whitaker (creator of the world-famous Whitaker's Almanack), it has proved the most comprehensive British list of books in print. The five volumes record titles in print at the end of October in the year preceding publication. Whitaker's Books in Print lists titles if they are published in the United Kingdom and are freely available to the general public through the book trade. English language titles published in continental Europe are also recorded. Additionally, titles published elsewhere overseas may be included provided they have English language text and are available to the trade through a sole stockholding agent based in the United Kingdom.

総代理店

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 研究社ビル TEL 03-3291-4541 FAX 03-3293-3484